

## 植物性屋根資材の認識・活用による自然環境保全と温暖化防止

指導教員 金沢星稜大学 人間科学部 准教授 三好伸子

参加学生 江上莉子・鈴木愛紗・古川桃子・山口春佳

### 1. 活動の成果要約

新型コロナウイルスの感染拡大の影響を受けて茅刈り体験の計画が2度延期になっている。そのため、茅文化についての体験的な理解の成果が見えていない状態である。

### 2. 活動の目的

当ゼミにおいては、2019年度から子どもの観察記録の作成や、絵本研究などを行ってきた。しかし2020年度は、新型コロナウイルスの感染拡大の影響を受けて、人と関わる事が制限された。その中で当ゼミメンバーは、改めて「地域の人と関わり、つながる」学習スタイルの必要性を感じた。そこで「人と協力して屋根を葺く」茅葺き文化を外部の専門家や現地の人たちとのつながりを感じながら、子どもに伝えていく教材づくりを目標とした。

日本には、古くから地域集落の里山形態として、住宅の屋根を茅(ススキなど)で葺くための茅場を林間に設けて、人が管理する仕組みがあり、林材資源の確保や野生動物との棲み分けなどが行われていた。近年は屋根資材が瓦や金属などになり、地域に培われてきた自然と人が接して交わる機会が激減している。そのために里山環境の崩壊や獣害を引き起こすなど、地域問題が深刻化している。

「茅葺」及び「茅採取」は、ユネスコ無形文化遺産に登録(2020)される世界的な重要文化である。しかし、茅葺き文化に関する子ども向けの絵本は、これまで出版されてなく、本研究活動の独自性は高い。子どもたちと持続可能な社会を考え合う契機となり、地域課題を解決する一助になる絵本開発を目指したい。本研究活動目的は、保育者になる学生による茅葺き文化(身近な植物の利用の意味・自然環境保全やエネルギー循環等)に関する子ども向けの絵本等の開発である。

### 3. 活動の内容

#### ① 茅刈り体験の事前学習

特定非営利活動法人石川県茅葺文化研究会理事長 坂本善昭氏に質問しながら、「茅葺」及び「茅採取」についてオンラインで学習した。計画では、石川県七尾市吉田町の「笹」で屋根を葺いている住居として使用中の「永井家」に集合して、「笹狩り」と「差し笹」を体験する予定であった。その体験学習のための事前学習である。学生の質問と応答を以下に2例挙げる。

(学生の質問 A)「茅屋根に使われる植物は様々にありますが、茅刈りに適した時期はあるのですか？」

(坂本氏より)「茅は、いろいろな植物の総称で、一般的なものはススキ、カリヤス、水辺ならヨシ、田園ならイネ、コムギなどです。珍しいのはササです。ススキの場合枯れた状態がいいので、秋から雪の降るまでの10月～12月ごろが適しています。ササは、いつでもいいですが、茎に水の上がる6月～8月頃は狩りません。」

(学生の質問 B)「茅葺屋根の耐用年数はどれくらいですか？」

(坂本氏より)「地域の裁量と立地環境次第ですが、昔は一般にススキやヨシは60年～80年くらい持たせました。もちろん間に補修(「差し笹」といい、傷んだ部分を抜き取って新たな茅を差し込む)が必要です。現在は、環境などの影響で15年～25年くらいですが、お金ではない価値や意義、つまり

環境寄与とエネルギー循環性能に魅力があります。」

## ② 富山県南砺市五箇山合掌の郷

富山県南砺市五箇山合掌の里を見学した。感じたことを生かして絵本作りの構想を練る予定である。以下が学生たちの感想である。

### 【五箇山合掌の里の見学・演習の感想】

日本の昔話の世界にタイムスリップした気持ちになった。/イワナ寿司、飛騨牛寿司、五平餅などがとてもおいしかった。/菓子木型体験は、初めてであったが、ていねいに教えてもらって「クリスマス飾りのポインセチアの菓子、来年の干支の虎の型のすはま」などを、作ることができた。その場で食べることはできなかったが、持ち帰りおいしくいただいた。/床が高くなっていて、昔の日本人の知恵を感じた。/中に入ると、涼しく感じたので夏は快適で、冬は大変だと思う。/雪に耐える屋根を植物性資材で作っていることに驚いた。/屋根づくりを含めて、集落の人々は、協力し合って生きていたのかなと感じた。/事前学習で聞いた「結」の精神を感じた。/土地の人に郷土玩具を鳴らして見せてもらい、子どもたちと一緒に遊んでみたいと思った。

## 4. 活動の成果

### ③ みずきこども園での遊び

社会福祉法人陽風園 みずきこども園において、子どもたちと一緒に茅屋根の紹介、手遊び「雪のこぼうず」、郷土玩具遊び（郷土楽器 ささらとでんでん太鼓）、和紙の貼り絵遊び、絵本の読み合い（『やとのいえ』、『ゆきのひ』）などを実施した。以下子どもの様子と学生たちの感想である。

### 【子どもの様子と学生の感想】

茅葺屋根の写真を見た子どもたちが、自分の体験と結び付けて「自然体験教室！」と言っていた。子どもの生活と結びつく教材を作りたい。/茅葺きの写真を見て「たぬき」（に見える）と言う子どもがいた。子どもの視点や考えを大切にしたい。/「ささら（楽器）を鳴らしたい」と並んでいた。子どもが喜ぶ姿を見られてうれしかった。/和紙の貼り絵では、和紙を丸めたり、細くちぎったりして感触を楽しむ姿が見られた。/絵本の茅葺屋根と現代の屋根を見比べて驚いていた。茅葺屋根に興味をもってさらに調べたい。

## 5. 次年度以降の計画

今年度の活動は、絵本の構想を練る段階にまで至らなかった。来年度は、学生が茅葺きを直接体験学習して、その体験を生かして子どもに適した絵本づくりに取り組みたい。

## 6. 活動に対する地域からの評価

協力園の園長より

「子どもたちは学生が園に来てくれる話を聞いて、とても楽しみに待っていました。当日は少々よそ行きの顔でしたが、学生のお話を聞くことが楽しみな気持ちの表れだったのかなと思います。学生がSDGsの意識を子どもたちに伝える活動は、豊かな人間性の形成にも繋がるのではと感じました。素敵な活動の一環に混ぜていただきありがとうございます。今後ともよろしくお願い致します。

社会福祉法人陽風園 みずきこども園 園長 新谷京子